



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月6日

上場会社名 神姫バス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 9083 URL <https://www.shinkibus.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長尾 真  
問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 濱田 環樹 TEL 079-223-1243  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：無  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	37,757	8.0	1,356	78.9	1,462	91.3	925	160.6
2024年3月期第3四半期	34,948	11.7	758	412.4	764	145.7	355	129.5

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 839百万円 (138.5%) 2024年3月期第3四半期 352百万円 (254.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	153.50	—
2024年3月期第3四半期	58.96	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	63,114	47,936	76.0
2024年3月期	63,070	47,392	75.1

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 47,936百万円 2024年3月期 47,392百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	17.50	—	22.50	40.00
2025年3月期	—	30.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,900	6.9	3,200	1.7	3,380	2.9	2,260	0.4	374.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期3Q	6,172,000株	2024年3月期	6,172,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	140,713株	2024年3月期	146,728株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期3Q	6,029,328株	2024年3月期3Q	6,024,083株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料 3 ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢や所得環境の改善による個人消費の持ち直しや、インバウンド需要の増加により景気は緩やかな回復基調となりました。しかしながら、あらゆるモノの価格上昇や人手不足など先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおいては、当期が最終年度となる中期経営計画に定める基本方針「利益水準の回復と事業構造改革」に基づき、自動車運送業では神戸、大阪エリアにおける路線拡大、不動産業では優良な収益物件の取得による安定収益の確保、旅行貸切業では個人旅行需要を確実に取込むための施策などを実施しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は前年同期比2,808百万円(8.0%)増の37,757百万円、営業利益は前年同期比598百万円(78.9%)増の1,356百万円、経常利益は前年同期比698百万円(91.3%)増の1,462百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比570百万円(160.6%)増の925百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

#### ① 自動車運送

路線バス部門においては、三田～大阪梅田～新大阪線で4月に実施した増便や10月に「箕面萱野駅」停留所を新設するなど利便性向上を図り、利用者数が好調に推移したことに加え、一般路線バスの運賃改定が増収に寄与しました。高速バス部門においては、2023年12月に運行を再開した姫路～関西空港リムジンバスの需要の増加に対応して増便を実施しました。また、発着便の拡大が見込まれる神戸空港と兵庫県内各地(淡路市、洲本市、南あわじ市、神戸三田プレミアム・アウトレット、有馬温泉など)を直通する神戸空港アクセスバスを拡充しました。車両管理部門においては、企業輸送の新規獲得などにより増収となりました。

以上の結果、売上高は前年同期比1,176百万円(7.7%)増の16,518百万円、営業損失は291百万円(前年同期は営業損失848百万円)となりました。

#### ② 車両物販・整備

車両物販部門においては、車両平均使用年数の長期化による自動車整備部品の需要拡大と部品価格の値上げが影響したことや、4月に発生した雹(ひょう)害による钣金部品の販売が増加したことなどにより好調に推移しました。整備部門においては、高額修理の増加などにより増収となりました。

以上の結果、売上高は前年同期比728百万円(10.4%)増の7,759百万円、営業利益は164百万円(32.0%)増の679百万円となりました。

#### ③ 不動産

賃貸部門においては、学生向け賃貸マンション「グランネクサス三田駅前」などの賃貸開始により増収となりました。住宅部門においては、分譲住宅及び分譲地引渡件数が増加したことで増収となりました。

以上の結果、売上高は前年同期比403百万円(9.9%)増の4,478百万円となりましたが、償却費の増加などにより営業利益は28百万円(2.7%)減の1,039百万円となりました。

#### ④ レジャーサービス

サービスエリア部門においては、5月に市川サービスエリアのレストラン運営から撤退したことで減収となりました。飲食部門においては、「まいどおおきに食堂」などが好調に推移しました。ツタヤFC部門においては、市場規模の縮小に伴いレンタル売場を圧縮しましたが、ネイルサロン開設や物販の売場拡大に注力しました。

以上の結果、売上高は前年同期比46百万円(1.4%)増の3,441百万円となりましたが、ツタヤFC部門においてネイルサロン開設の初期費用を計上したことなどにより営業損失は9百万円(前年同期は営業利益44百万円)となりました。

⑤ 旅行貸切

旅行部門においては、バスツアー、団体旅行が好調に推移したことに加え、クルーズツアーの集客数が増加したことにより増収となりました。貸切バス部門においては、前期に貸切バス公示運賃が改正されたことに加え、「世界パラ陸上競技選手権大会」の輸送を受注したことなどにより増収となりました。

以上の結果、売上高は前年同期比582百万円（13.2%）増の4,990百万円となりましたが、4月から開始した瀬戸内周遊ツアーの準備費用などにより、営業利益は92百万円（85.7%）減の15百万円となりました。

⑥ その他

WEBサービス部門においては、受注が減少したものの、経営受託部門において、既存施設の指定管理料の増額や、西播磨文化会館、こどもの館、姫路駅北にぎわい交流広場など新たな指定管理を獲得したことなどにより増収となりました。

以上の結果、売上高は269百万円（8.1%）増の3,600百万円、営業損失は50百万円（前年同期は営業損失111百万円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ43百万円増加し、63,114百万円となりました。増減の主なものは、有形固定資産の増加770百万円、投資その他の資産の増加646百万円、その他流動資産の増加405百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少1,626百万円などです。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ501百万円減少し、15,177百万円となりました。増減の主なものは、賞与引当金の減少471百万円、借入金の減少434百万円、未払金の増加532百万円などです。

(純資産)

純資産は、利益剰余金の増加608百万円、その他有価証券評価差額金の減少53百万円などにより、前連結会計年度末に比べ544百万円増加の47,936百万円となり、自己資本比率は76.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年11月8日に公表した予想を変更しておりません。今後の事業環境や収益見通しなどを見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,966	5,636
受取手形、売掛金及び契約資産	5,659	4,033
商品及び製品	661	752
仕掛品	263	369
原材料及び貯蔵品	123	137
分譲土地建物	501	500
その他	273	678
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	13,446	12,103
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	28,035	28,205
減価償却累計額	△16,271	△16,826
建物及び構築物(純額)	11,763	11,378
機械装置及び工具器具備品	3,207	3,214
減価償却累計額	△2,588	△2,657
機械装置及び工具器具備品(純額)	618	556
車両運搬具	18,513	18,497
減価償却累計額	△16,404	△16,912
車両運搬具(純額)	2,109	1,584
土地	25,907	26,143
リース資産	604	829
減価償却累計額	△240	△328
リース資産(純額)	363	501
建設仮勘定	381	1,749
有形固定資産合計	41,144	41,914
無形固定資産	288	257
投資その他の資産		
投資有価証券	3,850	4,425
退職給付に係る資産	1,925	1,970
その他	2,466	2,497
貸倒引当金	△49	△55
投資その他の資産合計	8,191	8,837
固定資産合計	49,624	51,010
資産合計	63,070	63,114

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	966	1,050
電子記録債務	454	536
1年内返済予定の長期借入金	571	1,395
リース債務	123	163
未払金	3,199	3,731
未払法人税等	611	222
賞与引当金	1,094	623
その他	2,697	2,999
流動負債合計	9,719	10,723
固定負債		
長期借入金	1,333	75
リース債務	305	403
役員退職慰労引当金	9	9
退職給付に係る負債	934	933
その他	3,375	3,033
固定負債合計	5,959	4,454
負債合計	15,678	15,177
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,248	2,251
利益剰余金	40,445	41,054
自己株式	△440	△422
株主資本合計	45,393	46,023
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,741	1,687
為替換算調整勘定	△17	△25
退職給付に係る調整累計額	275	251
その他の包括利益累計額合計	1,998	1,913
非支配株主持分	—	—
純資産合計	47,392	47,936
負債純資産合計	63,070	63,114

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	34,948	37,757
売上原価	28,137	30,016
売上総利益	6,811	7,741
販売費及び一般管理費	6,053	6,384
営業利益	758	1,356
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	75	108
助成金収入	33	13
その他	66	68
営業外収益合計	181	195
営業外費用		
支払利息	4	6
持分法による投資損失	75	28
固定資産除却損	11	11
関係会社貸倒引当金繰入額	3	6
関係会社事業損失引当金繰入額	5	—
投資事業組合運用損	62	11
その他	13	25
営業外費用合計	175	90
経常利益	764	1,462
特別利益		
車両等購入補助金	101	92
固定資産売却益	64	—
特別利益合計	166	92
特別損失		
固定資産除却損	115	—
固定資産圧縮損	29	81
減損損失	2	38
本社移転費用	—	31
特別損失合計	146	150
税金等調整前四半期純利益	784	1,404
法人税等	428	479
四半期純利益	355	925
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	355	925

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	355	925
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	△53
退職給付に係る調整額	△24	△23
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	△8
その他の包括利益合計	△3	△85
四半期包括利益	352	839
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	351	839
非支配株主に係る四半期包括利益	0	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しています。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っています。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しています。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	1,262百万円	1,529百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	不動産	レジャー サービス	旅行貸切	計		
売上高								
外部顧客への売上高	15,178	5,313	3,441	3,395	4,341	31,670	3,278	34,948
セグメント間の内部 売上高又は振替高	163	1,716	632	—	67	2,579	52	2,631
計	15,341	7,030	4,074	3,395	4,408	34,250	3,330	37,580
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△848	514	1,068	44	107	886	△111	775

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、経営受託、索道業、食料品・化粧品等の物品販売、広告代理、Webサービス、農業、介護、保育等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	886
「その他」の区分の損失(△)	△111
セグメント間取引消去	△16
四半期連結損益計算書の営業利益	758

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・整備	不動産	レジャーサービス	旅行貸切	計		
売上高								
外部顧客への売上高	16,356	5,711	3,786	3,441	4,923	34,218	3,539	37,757
セグメント間の内部売上高又は振替高	161	2,048	691	—	67	2,969	61	3,030
計	16,518	7,759	4,478	3,441	4,990	37,187	3,600	40,788
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△291	679	1,039	△9	15	1,433	△50	1,383

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、経営受託、索道業、食料品・化粧品等の物品販売、広告代理、Webサービス、農業、介護、保育等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,433
「その他」の区分の損失(△)	△50
セグメント間取引消去	△26
四半期連結損益計算書の営業利益	1,356